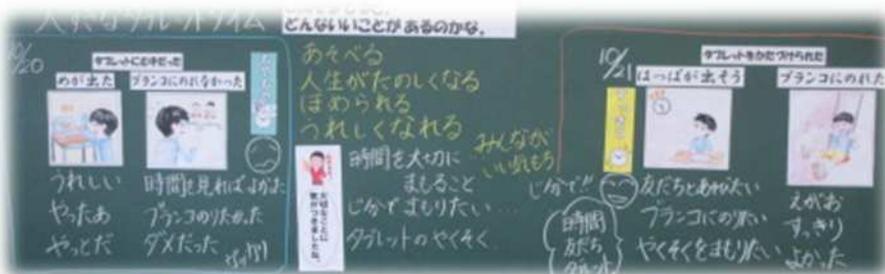


令和5年度東部地区道徳教育研究協議会

白岡市立菁莪小学校

【低学年部会】

主 題 名 じかんをまもるといい気持ち  
内容項目 A 節度, 節制  
教 材 名 「大すきな タブレットタイム」  
(彩の国の道徳「未来に生きる」)



思考を深める手掛かりとなる板書



自分自身と向き合う児童の姿

## 1 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

- 教室には温かい雰囲気があり、児童は安心して発言していた。児童は熱心に考え、反応のよさが素晴らしかった。
- ねらいに迫るために、発問を工夫していた。1日目と2日目の日記を比較したことは、効果的であった。また、板書に対比的にすることで、児童にとって分かりやすかった。
- 「時間を守る＝よいこと」だけの捉えではなく、本時で考えたように、「時間を守るとどんなよいことがあるのか？」について話し合えたことはよかった。自己を振り返っている様子を見ると、道徳的価値についてよく考えていることが伝わってきた。
- 「みんなが嬉しくなる」という発言があり、周りの人のことも考えた話合いができていた。
- 「本当にやめられるかな？」等、児童の心に揺さぶりをかけることで、考えが深まっていくことが分かった。



## 2 指導講評

- 児童の実態を把握しているからこそ、意図的指名ができたり、実態に応じた発問ができたりする。授業では、教員と児童が心を通わせている姿が見られ、学級経営の大切さを改めて実感できる授業であった。
- 教員自身が多面的・多角的に児童のことを理解することが大切である。それが児童のよさを見取る評価にもつながってくる。
- 道徳的価値は、様々な道徳的価値と密接している。本時は「節度、節制」の内容項目であったが、「気持ちが良い」の発言がポイントとなってくる。児童から「人生が楽しくなる」という発言もあった。この関係性を考えるとさらに深まっていくと考えられる。また、特に低学年では、「褒められる」という外発的動機ではなく、内発的動機を大切に扱いたい。
- 児童に揺さぶりの問いかけをすることで、道徳的価値のよさについて考えることができる。
- 「アンケートでは、〇〇だったよね。今回、考えてみてどうかな？」等、誰がどのように考えたのかを見取ることも大切である。

